

ハンドブック ワンポイント レッスン

知っておきたい規則とルール

Question

支部審判指導者の方からのご意見です。

インターネットTVの普及が進み、全国で多くの方が今まで気付くチャンスが無かったがTVを見て、特にマッチでの挨拶で気になる動作があります。

① プレーボールのコールの後にプレーヤーが礼をする挨拶は、トスの時に挨拶しているから、やらなくていいはずだが。以前のルールブックには書いてあったと思いますが、変わったのでしょうか。

インターネットTVで見る一流選手でもやっている光景が見られます。

② 個人戦(団体戦での各マッチも同様)でゲームセットの後、プレーヤーは、ネットの傍らに集まることになっているはずだが、サービスラインに揃ってからネットに歩み寄っている。それも正審の合図で集まるプレーヤーもいる。韓国で行われた大会のインターネットTVでも前衛が後衛のネットに行く足を止めて揃ってからネットに寄っていた。このようにインターネットTVで一流プレーヤーがやっているのを見ると影響力が大きい。

Answer

マッチ終了後、プレーヤーおよびアンパイヤーは速やかにマッチ開始(トスの位置)の挨拶をした位置に立つ

残念ですが、言われる通りです。この度のご意見の様な光景が現実にもトッププレーヤーの方々にも見られることがあります。(財)日本ソフトテニス連盟審判委員会としては正しいルールの普及等に努力しており、講習会・研修会の際には常に心がけていますが会員の皆様にご協力願うしかありません。

①のご意見については2001年度版「国際競技規則 審判の要領」Ⅲ. 5. (3)の「[play ball] というコールの後、直ちにマッチを開始する。この場合プレーヤーがあいさつすることが多いが、すでにあいさつは行われているのでこの時はしない。」と記載してありましたが、新ルールの2004年度改訂版で、「[…プレーボール] 等とコールし、マッチを開始する。」と従来の文言が削除されました。これは簡略化の方向に改訂されたもので、挨拶のことは従前の通りとの前提があったもので、2008年1月に制作した審判技術マニュアルDVDに、「すでに挨拶は行われているのでこの時はしない。」とナレーションで指導を促していますので、挨拶は1回とご理解下さい。

②のご意見については、本誌2007年6月号ワンポイントレッスンに掲載しました。そして、ハンドブックに次のように明確に記載してあります。

審判規則第23条(マッチの進行)(12)『マッチが終了した後、正審は「ゲームセット」のコールをして直ちに審判台を降り、プレーヤーを待たせないように、**マッチ開始(トスの位置)の挨拶をした位置**に立つ。プレーヤー及び他のアンパイヤーもネットの傍らに寄る。(以下省略)…』と終了時の集まる位置を明確にしています。また、団体戦の終了時の挨拶は、同条(13)『団体戦の場合は試合前の挨拶と同様に、双方のチームがベースラインの外側に整列してから正審の合図「集合」というコールでネットの傍らに寄り(以下省略)…』と集まる位置が定められていますので是非ご理解とご協力を重ねてお願いします。

大会のレフェリー・アンパイヤーを務められる方はもとより、参加されるプレーヤーはアンパイヤーの資格を取得された方々です。常にルールに関心を持ち、自らルールを守りマッチの進行について理解し大会運営にご協力をお願いします。

【関連規則】

審判規則第23条(マッチの進行)(10)、(12)、(13)

団体戦と個人戦の開始時と終了時の挨拶の仕方を図で示すと以下の通りです。特に個人戦(団体戦での各マッチ)終了時の挨拶は図Dを参照して下さい。

